

インターバンクの声（2017年4月26日）

昨日、東京市場のドル円は朝方こそドル売りになる場面があったが、日経平均が上昇に転じると徐々にドル買い・円売りが進んだ。夕方近くになっても懸念されていた北朝鮮による核実験や弾道ミサイルの発射がなかったことも市場の安心感を誘い、さらに円売りが続いた。

ロンドン市場ではさすがに東京の朝方に下げた水準から1円近く円安が進んだこともあり、昼前には円売りが止まる局面も見られたが、その後ニューヨーク勢の参入後もドル買い・円売りが続いた。

今月の雇用統計の発表以降、かんばしくない内容の米経済指標の発表が度々あり、住宅関連指標にも陰りが出てくるのではと不安視されていたが、先週末の中古住宅販売に続いて昨日の3月の新築住宅販売も予想に反して大幅に増加した。

米国株も大きく上昇、先週2.1%台まで低下していた米10年債利回りも2.34%まで戻したこともかさなり、ドル円は約2週間ぶりに111円台に乗せてきた。

ユーロも明日の欧州中央銀行(ECB)理事会を待たずに関係筋からフォワードガイダンスの変更検討の話が伝わって1.09ドル台中盤まで買われている。

市場のセンチメントが数日前とは様変わりした感もあるが、依然注目されるイベントが控えていることもあって油断は出来ない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。